

平成8年度企画展入館者動向について

—アンケート調査の結果により—

岩田憲二, 田島雅子, 藤本光章*

The report on the questionnaire on the visitors' evaluation about the special exhibition
in the Ehime Prefectural Science Museum in 1996
Kenji IWATA, Masako TAJIMA, Mitsuaki FUJIMOTO

During the special exhibition on dinosaurs held in the summer of 1996, authors carried out a research about the visitors' evaluation to the exhibition by a questionnaire. As a result of the questionnaire, it became clear that distributions of a flier and poster through pupils and junior high school students are the most efficient means for getting more visitors.

Some visitors had a severe viewpoint toward the content and fee of the exhibition. However, we have got more than 50,000 visitors during the exhibition. It is very important for us to provide a substantial exhibition (participation and experience-oriented one) to visitors.

はじめに

当博物館では、最新の学術情報や学芸員の調査成果を県民一般に披露するために、年1回、企画展を開催している。平成8年度は、「恐竜」をテーマに、7月14日(日)～9月1日(日)の間、企画展を開催した。開催期間(実質43日間)中、合計51,215人の入館者があり、大変盛況であった。今後一層の利用者増と企画展の改善を図るための基礎資料とすることを目的に、開催期間中にアンケート調査を行った。

本報告では、アンケート調査の結果明らかになった。来館の動機、入館者のデータ、企画展の展示内容や入場料に対する評価、企画展に対する感想等についてのアンケート結果を報告すると共に、今後企画展を開催する上で指針とする調査結果も併せて報告する。



写真1 家族連れで賑わう展示場



写真2 体験コーナー近辺

調査の方法

アンケート調査票(資料)を企画展示室出口で配布し、その場で用紙に記入してもらい、1日ごとに回収した。調査期間は7月16日～7月30日及び8月3日～9月1日の39日間で、この期間中の入館者、48,534人の入館者に対し、アンケートに対して1,458人の回答があり、回収率は約3%であった。7月31日～8月2日の間に展示内容を一部変更(新たにスケッチコーナー・恐竜クラフトコーナーを追加し、恐竜もの知りクイズ用紙を設置)したので、この期間中はアンケートを行わなかった。

回収したアンケート票は、パソコン(ソフト:ロータスアプローチ)を使ってデータベース化し、調査結果を集計した。集計結果は、(1)来館者の個人データ (2)企画展の内容に関する集計 (3)各設問間のクロス集計、の3部門に大別して整理した。(1)・(2)は、前記展示替え期間

*愛媛県総合科学博物館 振興課 Ehime Pref. Science Museum

(7/31～8/2)前と後の調査結果もそれぞれ集計した。(3)のクロス集計では、企画展に対する評価と料金との関係等について調べた。

アンケートの結果

1 来館者の個人データ

(1) 回答者の出身地

アンケート回答者を発地別にみると、県内客(924人/66%)：県外客(467人/34%)＝2：1であった。企画展開催期間とほぼ同じ時期(平成8年7月20日～9月1日)に、駐車場の自動車ナンバーから割り出した発地別調査でも、県内車(67%)：県外車(33%)は2：1の割合で、更に、8年度の上三四半期(平成8年4月1日～12月末)でも、県内(65%)：県外(35%)は2：1であった。企画展の有無にかかわらず、県内外客の比率はそれほど変わらないことがわかる(表1-A)。

次に、市町村や県名を記入した回答者は、県内(843人/66%)・県外(431人/34%)で、県内については、東・中・南予別にまとめた上で、市町村別に集計した。県内回答者843人(100%)中、東予地域の回答者が最も多くて513人(60.8%)、次いで中予が283人(33.6%)、南予が47人(5.6%)の順であった。都市別では、地元の新居浜市(232人/27.5%)、県都松山市(208人/24.7%)、10万都市今治市(83人/9.8%)、隣接地の西条市(74人/8.8%)が目立った。やはり、博物館からの遠近といった地理的条件や高速道路の有無といった交通条件により、入館者数が左右されていると推定される。

県外の回答者431人中、四国3県が242人、それ以外の県外回答者が189人で、四国内の回答者が上回った。県別では、香川県(129人)、高知県(71人)が、高速道路沿線という交通条件のためか、1・2位を占めた。3位も同じ四国の徳島県(42人/9.7%)であった(表8)。

表1 回答者の個人データ

A	・おすまいは	・市町村、県別データは表8を参照	
	県内 924人(63%) 県外 467人(32%) 無回答 64人(5%)		
B	・性別	・年齢	
	男性 558人(38%) 女性 836人(57%) 無回答 64人(5%)	～15歳 626人(43%) 16歳～ 540人(37%) 無回答 292人(20%)	
	・ご来館は	・ご来館回数は	
C	ご家族と 1,001人(69%) お友達と 224人(15%) 団体で 128人(9%) お一人で 30人(2%) 無回答 75人(5%)	1回目 730人(50%) 2回目 313人(22%) 3回目 122人(8%) 4回目 39人(3%) それ以上 132人(9%) 無回答 122人(8%)	

それ以外では、兵庫県・大阪府が比較的目標立った程度である。

(2) 性別・年齢

回答者の性別では、女性(57%)が男性(38%)の1.5倍で、女性客自体が多いのか、女性の回答率が高いのか、今のところ判断できない。

回答者の年齢では、16歳以上(37%)と16歳未満(43%)、つまり当館の有料料金区分である小中学生と一般(高校生以上)の年齢の境目に合わせて集計した。企画展の有料入館者のうち大人63.7%、小人36.3%であることを考えると、アンケートの回答率は子どもの方がずっと高いことがわかる(表1-B)。

(3) 来館の形態

回答者の約7割が家族連れで圧倒的に多かった。夏休み中に開催したこと及び「恐竜」をテーマとした企画展であったことが、家族連れが多い要因となったと考えられる。7月末までと8月以後で比較すると、8月以後の方が家族連れの回答者の比率が高く、その分団体客の比率が下がっている。特にお盆前後の繁忙期の家族連れの多さが反映している。

来館回数は、回答者の内半数が初めての来館であった。回答者の内2人に1人が初めての来館ということは、企画展の開催が夏休み期間中の集客力を高める上で、一定の役割を果たしたと考えたい(表1-C)。

2 企画展に関する集計

(1) 来館の要因－広報と動機－(設問1・2)

企画展を何で知ったかという問いに対して、回答者が多かったのは、「博物館にきて知った」・「知人から」で、それぞれ21%と19%で1・2位を占めた。つまり、回答者個人に企画展開催が直接情報として届いた結果ではなく、未知ないし間接情報により企画展を知った回答者が上位を占めた。博物館に来て初めて企画展の存在を知ったというのではなく、企画展を目的に博物館に来る客の割合を一層高めることが必要となろう。また、知人経由の情報で企画展を知った回答率が意外に高く、夏休み・お盆の帰省客に照準を合わせた、在外県人会等への広報やJR・高速道路・フェリーへのポスター掲示も一層力を入れるべきであろう。

チラシ・ポスター・ニュース等のように、回答者個人に直接届く情報では、チラシが最も効果的な広報手段で15%あった。今回、県内の松山・今治・西条各教育事務所管内の全小中学校の児童生徒全員にチラシを配布した。これまで、今治・西条管内のみ、全児童生徒に印刷物を学校経由で配布していたが、今回の企画展で初めて松山教育事務所管内の小中学校の全児童生徒に配布した。企画展のテーマが「恐竜」で、小中学生向きであったこと、及び、企画展の目標入館者数を5万人余りと設定したた

表2 来館の要因 一広報と動機一

企画展を何で知りましたか		企画展に来られたのは	
県民だより (いきいき愛媛)	74人(5%)	恐竜に興味があった	570人(39%)
市町村広報	49人(3%)	プラネタリウム・常設展示を見るついで	492人(34%)
県政番組	11人(1%)	団体旅行	40人(3%)
新聞・テレビ等のニュース	132人(9%)	観光の途中 (個人・家族)	157人(11%)
ポスター	100人(7%)	その他	103人(7%)
チラシ	227人(15%)	無回答	96人(6%)
博物館に来て知った	308人(21%)		
知人から	278人(19%)		
各種刊行物	69人(5%)		
その他	126人(9%)		
無回答	84人(6%)		

め、松山地区から来館を促す目的で配布した。概ね効果が上がったので、次年度以後も行う予定である。

企画展に来た経緯・動機は、「恐竜に興味があった」が39%でトップで、恐竜をテーマにしたことが観客誘因の大きな要因となっている。今後企画展のテーマを策定する場合、一般の興味をひく内容にする事が大切であろう。次いで、「プラネタリウム・常設展示を見るついで」が34%と高率で、企画展単独でなくついでに来るという客も1/3いるという結果がでた。今後、毎年企画展を開催して当館の夏の催し物としての認知度が高まれば、この項目の比率は下がってくるものと思われる。(表2)。(2) 企画展に対する評価 (設問3・4・5)

企画展が面白かったかどうかの評価については、半数近くの47%の回答者が面白いと答え、面白くなかったの17%を大幅に上回った。数字の上では「おもしろかった」が「おもしろくなかった」の3倍近くあり、一応の評価はできるものと考えよう。前記の体験コーナーの設置前後における評価の変化をみると、「おもしろかった」は設置前(44%)よりも設置後(49%)の方が5ポイント上昇した。体験コーナーの効果はそれなりにあったと考えられる。(表3-A)。

体験コーナーの評価については、コーナーによってかなり差があった。最も「よかった」の比率が高かったのは恐竜ものしりクイズで、これは企画展に来館した小学生を対象に配布したこと、及びクイズを解きながら自然に恐竜に関する知識が身につく点が評価されたのではなからうか。スケッチコーナーとクラフトコーナーは、館が用意した長机の上で作業することにしたので、体験できる人員に限りがあった。そのため評価が低くならざるを得なかったと思う(表3-B)。

企画展の料金については、アンケート対象者の約6割が高いと答え、安い(4%)よりも圧倒的に高い比率であった。回答者が適当と感じる料金は、平均すれば大人269円、小人128円であることから、実際の料金設定でいえば、大人300円、小人150円程度を望んでいるものと考えられる(表3-C)。

表3 企画展に対する評価

企画展はどうでしたか		(7/16~7/30)	(8/3~9/1)
A	おもしろかった	691人(47%)	499人(49%)
	普通	442人(30%)	308人(30%)
	おもしろくなかった	243人(17%)	152人(15%)
	無回答	82人(6%)	60人(6%)
体験コーナーはいかがでしたか(8/3~9/1に回答した1,019人が対象)			
B	よかった	245人(24%)	478人(47%)
	普通	416人(61%)	285人(28%)
	よくなかった	150人(15%)	97人(9%)
	(注) 回答者と対象者数の差は無回答者数		
企画展の料金について			
C	高い	843人(58%)	
	適当	452人(31%)	
	安い	60人(4%)	
	無回答	103人(7%)	

(3) 企画展に対する要望・意見 (設問6・7)

企画展で取り上げてほしい分野は、自然史即ち、生物(動物・植物)や地学(地質・古生物等)に関する展示内容が最も要望が多く、全体の1/3強、次いで天文分野が1/4強であった。両者を合わせると2/3にもなる。自然史分野の要望が強いのは、例えば動物の剥製や化石、植物標本など展示資料が分かりやすく想像し易いから、天文分野は一般の感心が深いからと理解したい。物理・化学に対応する科学技術分野は約1/5で、前2者に比べてやや内容が想像しにくいために低かったと思われる。産業分野は、どういう展示内容になるのか、紙面の設問だけでは理解しにくい面もあり、また、内容的に余り派手さがないと受け取られたかも知れない。年1回開催する当館の企画展のローテーションは、学芸課の自然・科学技術・産業の3科が順次交代で担当するの

で、自然史分野等に関する来館者のこうした要望に対しては、館藏品展などの形で応えていくべきであろう(表4-A)。

表4 企画展に対する要望・意見

A	今後、どのようなテーマ(分野)の企画展が見たいですか	自然史 545人 (37%)	天文 388人 (27%)	科学技術 274人 (19%)	産業 42人 (3%)	その他 29人 (2%)	無回答 180人 (12%)		
	B	意見, 感想	・クラフトコーナーが良かった	・展示物が少ない	・展示案内員の説明がほしい	・展示室が狭い	・骨に触れて良かった	・幼児には難しい	
		・化石の化石があって良かった	・料金が低い	・映像が楽しかった	・大人にはもの足りない	・パソコンがおもしろかった	・動くものがもっとほしい	・クイズが楽しかった	・漢字にルビがほしい
		・案内のお姉さんが親切でよかった		・恐竜スタンプが良かった					

企画展に対する回答者の意見は多岐に渡って様々な内容であるが、肯定的な評価と否定的な評価両方があった。肯定的な意見では、「恐竜の骨に触れてよかった」、「パソコンがよかった」、「クイズが楽しかった」、「恐竜の映像がよかった」、「クラフトコーナーがよかった」等、聴覚・視覚・触覚に訴えたり体験したりする展示内容が評価されていた。企画展のように限られた期間内で一定の評価を得るには、五感に訴える展示手法や体験コーナーを活用することが必要である。一方、否定的な意見としては、「料金が低い」、「おもしろくない」等があった。これらの批判には、内容の充実で応えていかなければならない(表4-B)。

3 クロス集計の結果

(1) 年齢別の広報の状況(年齢と設問1)

年齢層と広報の関係では、15歳以下(ほぼ小中学生)がチラシを見て知ったが第1位であり、前記の通り、東中予地域の全小中学校の児童生徒に配布したためである。逆に、県民だより・市町村広報・各種刊行物等のマスメディアを通して企画展を知ったとするのは、16歳以上(高校生以上)が上回った(表5)。

(2) 年齢別企画展の評価-内容と料金-(年齢と設問3・設問5)

表5 年齢別の広報の状況

	15歳以下	16歳以上	無回答	合計
県民だより	23(3.8%)	37(7.0%)	14(5.7%)	74(5.4%)
市町村広報	21(3.5%)	20(3.8%)	8(3.2%)	49(3.6%)
県政番組	4(0.7%)	4(0.8%)	3(1.2%)	11(0.8%)
新聞・テレビ等のニュース	49(8.2%)	56(10.6%)	27(10.9%)	132(9.6%)
ポスター	41(6.8%)	43(8.2%)	16(6.5%)	100(7.3%)
チラシ	134(22.3%)	53(10.1%)	40(16.2%)	227(16.5%)
博物館に来て知った	131(21.8%)	120(22.8%)	57(23.1%)	308(22.4%)
知人から	113(18.8%)	120(22.8%)	45(18.2%)	278(20.2%)
各種刊行物	16(2.7%)	37(7.0%)	16(6.5%)	69(5.0%)
その他	68(11.3%)	37(7.0%)	21(8.5%)	126(9.2%)
合計	600(100%)	527(100%)	247(100%)	1374(100%)

年齢別の企画展の評価では、15歳以下の小中学生の約2/3がおもしろいと答えたのに対し、16歳以上は約1/3と、かなり評価が異なっている。「恐竜」をテーマにした事が大きな要因であろう。

年齢別の料金評価では、実際にお金を払う立場であろう16歳以上の入館者の方が、「高い」と感じる割合が高い。

当館が博物館として、教育普及を目的(の一つ)に企画展を開催する以上、入館者の誰もが「おもしろい」と感じ、内容の充実した企画を図る必要がある(表6-A・B)。

表6-A 年齢別の企画展の評価

	15歳以下	16歳以上	無回答	合計
おもしろい	401(67.4%)	197(37.5%)	93(36.3%)	691(50.2%)
普通	147(24.7%)	199(37.9%)	96(37.5%)	442(32.1%)
おもしろくない	47(7.9%)	129(24.6%)	67(26.2%)	243(17.7%)
合計	595(100%)	525(100%)	256(100%)	1376(100%)

表6-B 年齢別の料金の評価

	15歳以下	16歳以上	無回答	合計
高い	303(52.6%)	357(67.9%)	183(72.3%)	843(62.2%)
適当	233(40.5%)	154(29.3%)	65(25.7%)	452(33.4%)
安い	40(6.9%)	15(2.9%)	5(2.0%)	60(4.4%)
合計	576(100%)	526(100%)	253(100%)	1355(100%)

(3) 料金の評価別の企画展の評価(設問3と設問5)

料金と企画展それぞれの評価の相関関係をみると、料金が低いと感じている客ほど内容が面白くないと感じる割合が高く、料金が安いと感じる客は面白いと感じる率が高いという、当然といえば当然の結果がでた(表7)。

表7 料金の評価別の企画展の評価

	高い	適当	安い	無回答	合計
おもしろい	298(36.6%)	318(71.1%)	44(75.9%)	44(75.9%)	691(50.2%)
普通	302(37.1%)	115(25.7%)	10(17.2%)	10(17.2%)	442(32.1%)
おもしろくない	215(26.4%)	14(3.1%)	4(6.9%)	4(6.9%)	243(17.7%)
合計	815(100%)	447(100%)	58(100%)	58(100%)	1376(100%)

(4) 地域別の広報の状況（住所と設問1）

県内外の広報の状況では、チラシ・ポスター・ニュース等で知ったのは県内が多く、県外客「博物館に来て知った意外」・「知人から」・「各種刊行物」が多かった。県内に対しては、ポスター・チラシ・公的刊行物を中心とした広報を、県外に対してはこれらに加えて各県・地域のタウン情報誌に掲載したり、知人関係からの情報が多いことから、県外在住の本県出身者に対する周知を、県人会などを通じて行うのも効果があると思われる。

市町村別の広報状況を見ると、県下最大の都市松山市や地元新居浜市・西条市・今治市ではチラシが最大の広報手段であることが確認された。東予・中予に比べ、南予の市町村ではチラシの比率が低く、その代わりにニュースを見て来館した客の比率が高い。今後、チラシ配布に工夫をし、南予地域も児童生徒経由でチラシ配布するようにしたい（表8）。

考 察

今回の企画展「恐竜」は、子供を含む家族連れをメインターゲットに展示内容を構成し、広くチラシ・ポスターを配布して観客動員を図ったが、アンケートの結果をみる限り、目論見通りにいったと思われる。家族連れが7割を占め、また5万人を越える入館者があったことは、児童生徒を経由してチラシを広範囲に配布した成果といえる。今回の展示でチラシ・ポスター配布を柱とした広報手段の有効性が確認された以上今後もこれらを活用して企画展の来館者増を図るつもりである。

アンケート回答者を発地別にみると、県内外を問わず高速道路沿いの地域からの客が多いので、今後とも沿線地域への広報に力を入れたい。今回の企画展では、高速道路のサービスエリア(SA)にチラシを置かせてもらい広報に努めたが、南予・今治・徳島各方面には今後、高速道路（自動車専用道）の進展が予想されるので、沿線地域でのチラシ配布等による広報には力を入れていきたい。また、帰省客や県外在住県出身者への積極的な広報も行っていきたい。

企画展は、学芸員の調査研究の成果を発表する場であると同時に、夏休みの大きなイベントでもあり、楽しみを提供する工夫も必要である。恐竜展では、五感に訴え

る展示や体験コーナーが人気を集めたので、展示の中にもこうした要素を取り入れることを、企画展の重要な基本方針として、今後とも継続して行いたい。

表8 地域別の広報の状況

		1 県民 だより	2 市町 村広報	3 県政 番組	4 ニュ ース	5 ポス ター	6 チラ シ	7 来館 して	8 知人 から	9 各種 刊行物	10 その他	合 計
東予	今治市	7	1	1	10	5	21	15	12	2	9	83
	新居浜市	16	18	2	21	23	44	45	35	2	26	232
	西条市	2	7		12	6	19	13	6	1	8	74
	川之江市				3	4	6	2	1		1	17
	伊予三島市	2			1	4	9	9	3		4	32
	東予市	1	2	1	1	4	5	3	1			18
	新宮村	1				2						3
	土居町				1	3	7	4	1			16
	小松町	3	1		3	1	1	1	1			11
	丹原町	2	1		1		1	4				9
	朝倉村					2	1				1	4
	玉川町					1			1			2
	波方町				2		2				1	5
	大西町						1	2				3
	菊間町					1		1	1			3
宮窪町										1	1	
小計	34	30	4	55	56	117	99	62	5	51	513	
中予	松山市	19	4	2	28	18	47	38	23	18	11	208
	伊予市	2			2	2	4	3			1	14
	北条市				2		5	2	6		4	19
	重信町	1	1		3	1	8	1			1	16
	川内町					2	1	1	1	1		6
	中島町						1					1
	久万町		2				1	1	1			5
	美川村						2					2
	松前町						1		1	1	1	4
	砥部町		1				1	1				3
	双海町	1							2		2	5
	小計	23	8	2	35	23	71	47	34	20	20	283
南予	宇和島市	1			2	1	2	7	2	1		16
	八幡浜市					1	1	1	1			4
	大洲市	1		1	5			1	1		1	10
	内子町								1			1
	肱川町										1	1
	保内町		1									1
	宇和町				1				1		1	3
	野村村					2						2
	三間町				1							1
	広見町				2			1			1	4
	津島町										1	1
	御荘町	1										1
	城辺町				1							1
西海町									1		1	
小計	3	1	1	12	4	3	10	6	2	5	47	
愛媛県合計		60	39	7	102	83	191	156	102	27	76	843
県外	香川県				5	3	9	40	41	14	15	129
	高知県		1		3	4	5	24	24	4	6	71
	徳島県	2	1		1	1	2	22	6	4	5	42
	四国以外の地域	1	4	2	9	5	7	46	85	15	15	189
県外合計		3	6	2	18	13	23	132	156	37	41	431
合 計		63	45	9	120	96	214	288	258	64	117	1274

(資料)

企画展アンケート調査 ()月()日

ご来館いただきありがとうございます。企画展をより良くするためのアンケート調査です。ご意見・ご感想等をご遠慮なくご記入ください。

おすまいは	県内 () 市, 町, 村) 県外 ()
性別、年齢	男性 () 女性 () 歳)
ご来館は	ご家族と () お友達と () 団体で () お一人で
ご来館回数	() 回)

1. 企画展を何で知りましたか

- (1) 県民だより (いきいき愛媛) (2) 市町村広報 (3) 県政番組
 (4) 新聞・テレビ等のニュース (5) ポスター (6) チラシ
 (7) 博物館に来て知った (8) 知人から (9) 各種刊行物
 (10) その他 ()

2. 企画展に来られたのは

- (1) 恐竜に興味があった (2) プラネタリウム・常設展示を見るついで
 (3) 団体旅行 (4) 観光の途中 (個人・家族)
 (5) その他 ()

3. 企画展はどうでしたか

- (1) おもしろかった (2) 普通 (3) おもしろくなかった

4. 次の体験コーナーはいかがでしたか (○印をつけてください)

- (1) スケッチコーナー (よかった ・ 普通 ・ よくなかった)
 (2) クラフトコーナー (よかった ・ 普通 ・ よくなかった)
 (3) 恐竜もの知りクイズ (よかった ・ 普通 ・ よくなかった)

5. 企画展の料金について (大人500円・小中学生250円)

- (1) 高い (2) 適当 (3) 安い
 大人 () 小中学生 () 円) が適当だと思う。

6. 今後、どのようなテーマ (分野) の企画展が見たいですか

- (1) 自然史 (動物、植物、鉱物・岩石、化石) (2) 天文 (3) 科学技術 (4) 産業
 (5) その他 ()

7. ご感想およびご意見をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際に回収箱にお入れください。